

令和7年度『ちばっ子の学び変革』 推進事業研究状況報告書

学校教育目標

自ら
「学ぶ・鍛える・磨く」

自分の考えに自信をもち、他を思いやりながら
自己表現できる生徒の育成

～知・徳・体の調和のとれた、心身共に逞しい生徒～

流山市立常盤松中学校

学校紹介

学校キャラクター
トッキー

 流山市立常盤松中学校



- ◆創立 1947年
- ◆生徒数 509名
- ◆学級数 18学級
(特別支援学級4学級含む)

<全校生徒数の推移>

R4 416名
R5 423名(+7)
R6 444名(+21)
R7 509名(+65)

研究主題

- ◆協働的な学びを目指して
～日々の学びを生活に生かす～

<福祉教育の研究> 研究指定R5・6・7

- ◆だれもが幸せに暮らせる町づくり 福祉×防災

<数学教育の研究> 研究指定R7・8

- ◆数学の学習活動を通して、生徒の自己有用感を高める

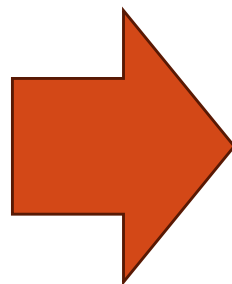
主題設定について

- 本校生徒の実態等から
- 目指す生徒像

学校の実態 <令和6年度全国学力・学習状況調査より>

<教科に関する調査>

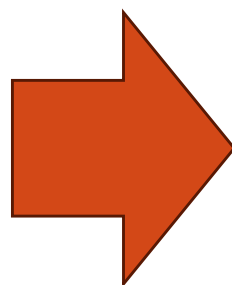
どの単元の正答率も
全国平均を上回っている。



数学の基礎学力は身につけている。
問題を解く力は身につけている。

<生徒質問調査>

どの項目でも
全国平均を下回っている。



数学の知識や技能は身につけているが、
関心や意欲が低い。
自己有用感が低い。

目指す生徒像

◆ 数学の学習に対して前向きに取り組める生徒

⇒ 定期的に小テストをおこない、理解度や到達度を計り、生徒の躰きを細かく把握して授業へ還元することで生徒の関心や意欲を高める。

◆ 自己の学習状況を把握し見通しを持って学習する生徒

⇒ 授業での自己の役割や内容理解について振り返ることで、生徒の自己有用感を高め、主体的な学習に繋げる。

実践内容

- ◆ 単元テストを実施
- ◆ Formsを活用した小テストや振り返り
- ◆ 少人数制の授業を導入し、単元ごとでクラス替え
- ◆ 週1回の数学部会

単元テストの実施

- 分散させることで
- ・家庭学習が習慣化する
 - ・生徒の躓きに気づける

例 単元テスト1回目

5/ 9 数英
5/20 国
5/27 理社

単元テスト2回目

6/24 数英
7/ 2 国理
7/ 9 社

Formsでの振り返り

意図的に
自己有用感を高める
質問を入れる

自己有用感を高めるための振り返りの質問の例

- ・授業で自分の考えや発言が仲間の役に立ったと感じた場面はありましたか。
- ・「頑張った」と思える自分の行動は何ですか。
- ・「助かった」と思える仲間の行動は何ですか。

少人数制の授業の実践・クラス分け

数学のクラス替えのタイミング

毎單元ごとにクラス編成

習熟度別クラスの実施

テストの前後
単元の終わりや応用部分

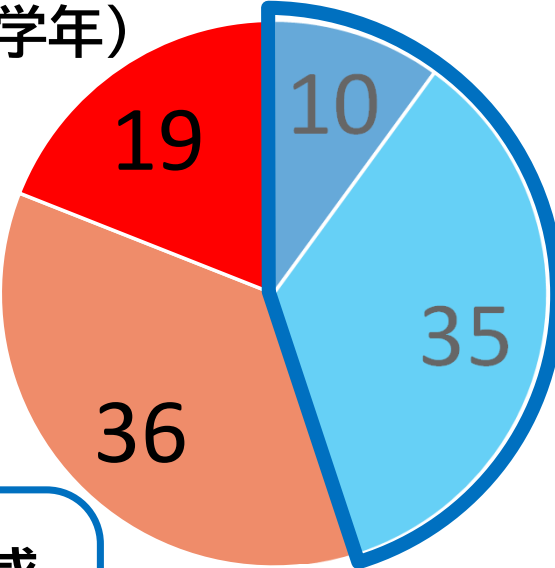
週1回の数学部会

<成果>

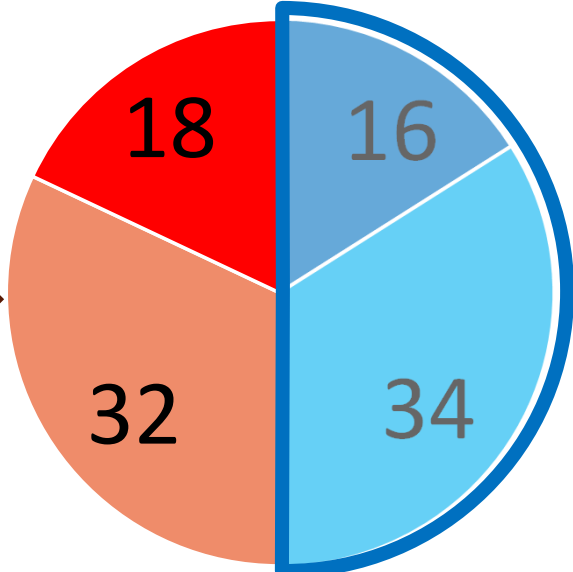
数学は得意ですか(調査対象:全学年)

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

4月



12月末



5%増加 (45%→50%)

生徒自身が理解の定着を実感し、自信を持ち始めている様子
がうかがえました!

教師の声



生徒の声



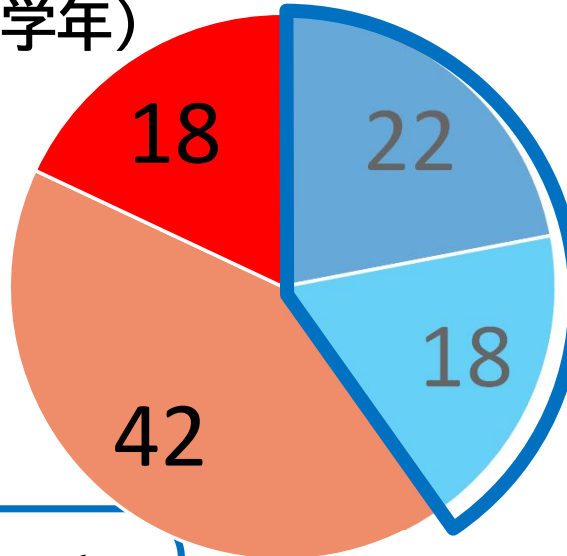
クラスを替えて授業を受ける中で自分が色々な仲間に必要とされ、数学が得意だと気づきました!

<成果>

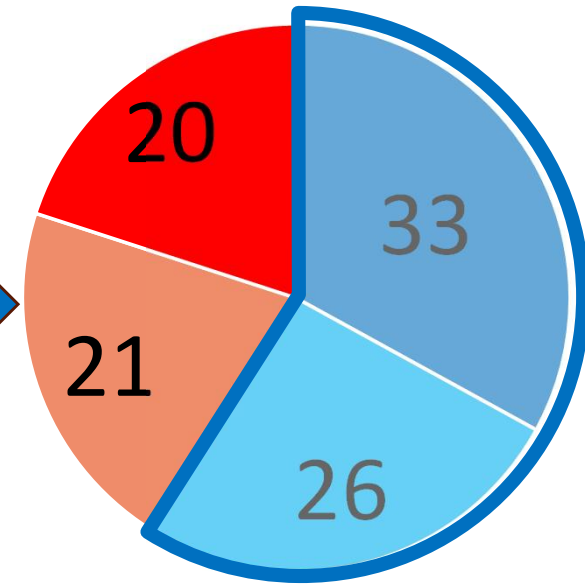
数学は好きですか (調査対象:全学年)

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

4月



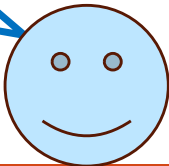
12月末



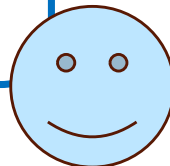
19%増加 (40%→59%)

生徒自身の躓きに早く気付くことができ、生徒の現状にあった授業を意識するようになりました。

教師の声



生徒の声



数学で分かる問題が増えました。授業も色々な先生と関わって良い刺激になっています。

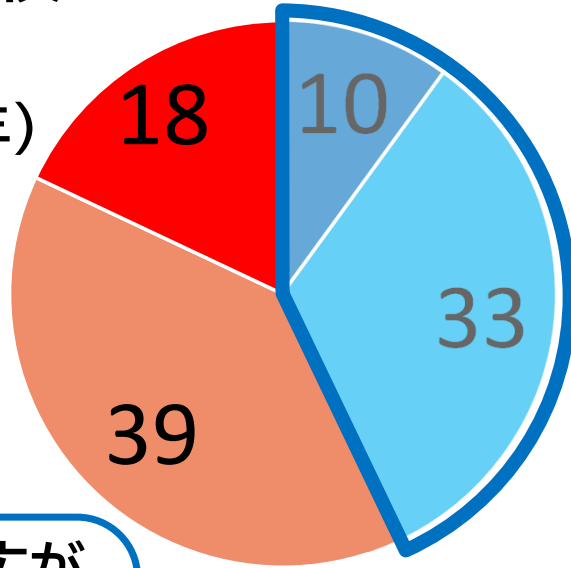
<成果>

あなたは数学の授業で仲間の役に立っていると思いますか

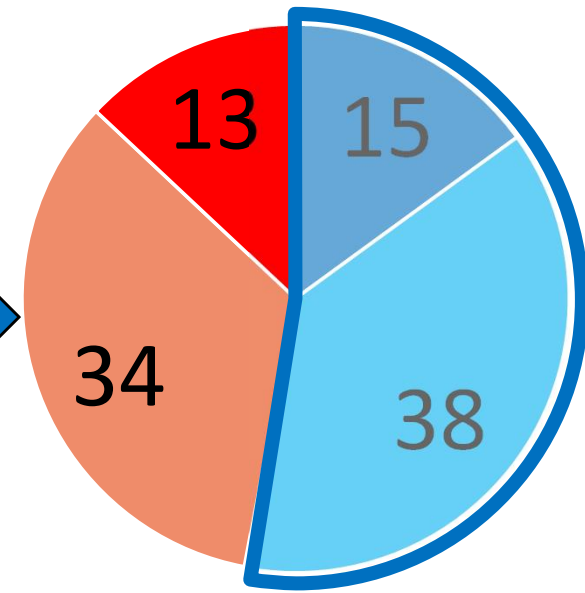
(調査対象:全学年)

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

4月



12月末



10%増加 (43%→53%)

クラス替えで生徒の人間関係の広がりを感じます。初対面でも教え合い活動が活発になり、生徒同士が助け合おうとする姿勢が見られるようになりました！

教師の声



生徒の声



振り返りのコメントで自分が仲間から感謝されていることを知り、嬉しかったです！

<アンケート調査で分かったこと>

アンケート結果のクロス集計

数学の得意不得意(生徒の主観)	自己有用感	割合(%)
得意である	高い	39
得意である	低い	11
苦手である	高い	15
苦手である	低い	35

自己有用感と得意不得意に相互関係がある。

自己有用感が**高い** = 数学が**得意**と感じる

自己有用感が**低い** = 数学が**不得意**と感じる

数学の得意不得意(生徒の主観)	自己有用感	割合(%)
得意である	高い	39
得意である	低い	11
苦手である	高い	15
苦手である	低い	35

数学が苦手でも、自己有用感が高い生徒が存在する。

<該当の生徒の意見コメント>

なぜ自己有用感が高い？

- ・自分が解けた問題があったときに、周りの人が教えてほしいと言ってくれるから。
- ・積極的に仲間と相談して、問題を解いているから。

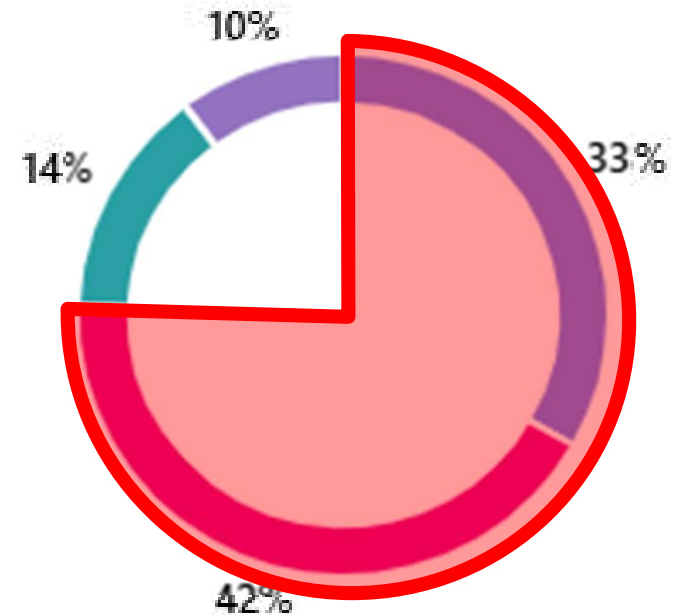
新たな疑問が教科部会で共有された

自己有用感が高い生徒の方が苦手の克服に繋がりがやすいのではないかと？さらに、今後の学力が向上するのではないかと？

<課題>

5. クラス替えは自分にとって有効だと思いますか

● そう思う	82
● どちらかというと思う	104
● どちらかというと思わない	35
● そう思わない	25

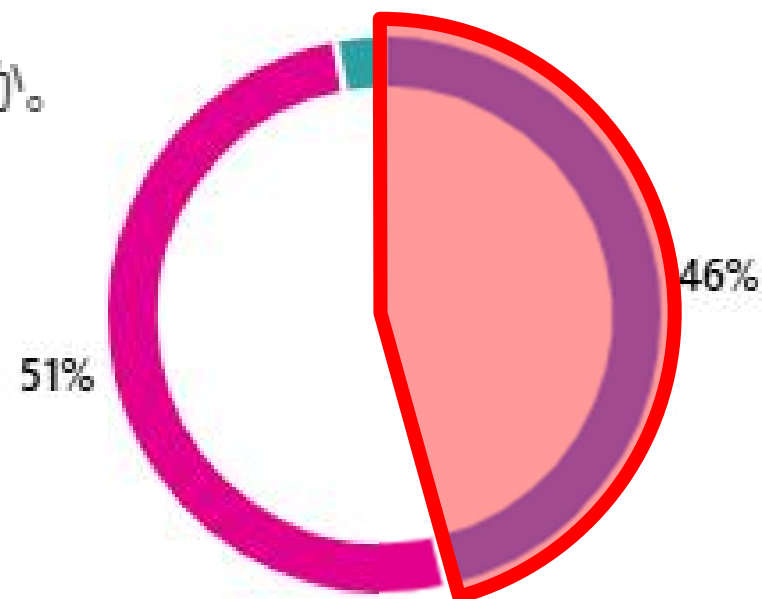


- 75%の生徒がクラス替えを有効と捉えている。
- 平均点が均等になるようにクラス分けを行った。

<課題>

6. クラス分けをする際、どのような基準でクラス分けがされたいですか。

● 希望する習熟度別でのクラス分け（基礎クラス、応用クラス）	115
● ランダムなクラス分け（クラスごとの平均点はほぼ同じ）	126
● その他	7



- 基本と応用クラスのような習熟度別の授業を望む生徒が半数
- 現在、生徒の希望制(基本・中級・上級)による習熟度別で実施中。
- 今後は、単元を絞ってクラス替えすることも検討している。

<加配教員の活用状況>

<数学教員6名>加配あり

- 1 学年 5 クラスを 7 クラスに分けて授業展開
- 2 学年 5 クラスを 7 クラスに分けて授業展開

⇒ 7 クラスを、3 クラス + 4 クラスに分けて加配教員を入れて同時展開した。

次年度の研究の方向性について

- ◆学校の課題として『自己肯定感』の低さを取り扱った。
 - ⇒結果として、令和7年度全国学力・学習状況調査において『自己肯定感』に関する項目は向上した。
 - ⇒しかしながら、『自己肯定感』という言葉が抽象的だったため因果関係を確認するのが困難であった。
 - ⇒次年度は、『自己肯定感』を更に細分化して研究していきたい。
- ◆今年度は、習熟度のクラス編成について課題が残った。
 - ⇒今年度の反省を生かしたクラス編成を行いたい。
 - ⇒今年度は2学年(1・2年生)で習熟度学習を取り入れたが、1学年に絞りたい。